

久米先生からのご意見「見える化について」

1. 見える化が可能か

経営工学が発展して経営工学分野で細分化されてきたが、現在は種々の学問分野からは「最適化のツール」と考えられているようである。大学の改組では経営工学の一面しか理解してもらえない。したがって、大学組織が経営工学全体を支援する体制にはないと思う。品質管理、OR、生産管理は学科目として成立するが、他の分野は成立しないと思われる。したがって、教育面では、あまり希望が持てないと思う。悲観的である。

2. 経営工学は研究分野

計測自動制御学会、システム制御情報学会のように、メインの学会とともに入会する学会に変わるべきである。機械学会、電気学会、建築学会、土木学会、情報学会、経営学会、医学会等大きい学会の研究者を引き入れる工夫が必要である。

3. 高校生、大学生に経営工学の学問分野を理解させるのは困難

経営工学に受験希望者の減少

啓蒙すればよいという問題ではないように思われる。

4. ものづくりにおいては経営工学的発想が必要

企業側の運営委員に大学で講義して欲しい経営工学分野の講義科目の優先順位を決定して貰う。

5. 学会の発展に重要なこと

2を重要視すべきである。近畿大学においては、見える化は困難。

自宅にて 久米靖文

竹安先生からのご意見「経営工学の見える化について」

大阪府立大学 竹安数博

『経営工学へのいざない』本出版の件

大阪府大経済学部では『経済学へのいざない』本を大阪公立大学共同出版会（OMUP）より出版予定。教員（教授中心）で各分野の紹介、自らの研究への取り組み等を自由に執筆してもらい、もって受験生や学生、院生達の参考にしてもらおうとするもの。各人10～20ページ、十数名で予定。これができるオープンキャンパス等に配布するなど有効に活用することができる。

経営工学と言っても、あまり知らない人も多いので、上記のような本を出すとインパクトがあると思われる。

分野別に執筆者を集めるのもよいが、十数名有志でこれを行うのもよいと思われる。

出版社については、最近の本があまり売れないので、こういう企画が通るかどうかわからない。執筆者メンバーが親しい出版社に企画を持ち込んで、出版可否を聞く。なお、出版社探しに難航すれば大学の出版局に持ち込む。その時は、自費出版的になる。先ほどのOMUPでは一般の自費出版よりかなり安価にできる。加えて大学出版局からの出版であると、読者から見ると最初から権威及び信頼感がある。

OMUPの場合、200ページ、A5版、500部で100万円強。部数を1000部にしても100数十万など。なお、これは図表数等も関係するので、その時点で見積もらないと正確なものはない。あくまでこれくらいという見当の値である。有志というのは、一人10万円でも負担してよいということから。なお、出版助成金申請も考えられる。

本件は日本経営工学会全体で考えたらよさそうであるが、全体になると、また動きに時間がかかることが予想される。まずは、関西支部で実績を出すことが考えられる。（各大学で取り組んでもよいような内容でもある）

本にすると、まとまった内容となるし、全国にも流通する。また、手近で活用することもできる、極めて有力な媒体といえる。

楠川先生からのご意見

2007年5月10日付け 資料1

5. 「関西支部学生会員の会」の結成とメーリングリスト・自主ゼミ・工場見学・講演会などの活動への支援

につきまして、関西支部学生会員の会へ学生が参加登録した場合にその学生に対する自主ゼミ・工場見学・講演会などの活動への支援の進め方・支援方法について具体的にどのようなものかを理解することができませんでした。非常に重要な支援活動であると考えられるためより詳細な説明を頂ければ有難く存じます。

以上でございます。よろしくお取り計らい下さいますようお願い申し上げます。

日比野先生からのご意見

経営工学に関する教育・研究の実態が見えない状況の本質は、各々の活動内容（研究テーマ）そのものが、社会が求めているものと合致していない点があるからでないかと考えます。

学外へアピールするならば、社会が求めているものと合致したテーマの研究をアピールすべきで、社会問題化している経営問題について経営工学の手法を用いて解決した事例を発掘して紹介する事だと考えます。

例えば、次のような有名な社会事例について、経営工学を用いて解決したような事例があれば、こういったものに焦点を当て、是非とも紹介していくべきだと考えます。

- 例) (2000年) 雪印集団食中毒事件後の品質改善
- (2001年) アメリカ同時多発テロで被災した企業の立て直し
- (2004年) 中越地震で被災した新潟三洋電子の立て直し
- (2004年) 三菱ふそう のリコール隠し発覚後の企業体質改善
- (2006年) ソニー、リチウムイオン電池の大量回収後の品質改善

水山先生からのご意見

また、「経営工学の見える化」につきましては、まず最初に、「誰に」「何を」見える化することが求められているのかをはっきりさせるのが大切なような気がしました。ご提案内容では、

- * 「大学や大学院の受験者」に「経営工学を学べる研究室」を見える化
- * 「企業の採用担当者」に「経営工学を学んだ学生」を見える化
- * 「経営工学を学ぶ学生」に「それが社会で活用される様」を見える化
- * 「経営工学を学ぶ学生」に「同じ分野で学ぶ仲間」を見える化

などに主眼が置かれているように感じましたが、これら以外にも何かあるかもしれません。

水田先生からのご意見

「経営工学の見える化」については

- ① 支部長提案の施策展開については異議はありません。
- ② 視点を変えて、「見える化のターゲット」から整理をしてみました。
議論のヒントにでもなれば幸いです。添付します。

「経営工学の見える化」

| 見える化のターゲット | | 目的 | 何を見える化するか | 見える化の方法 | 効果見通し |
|------------|------------------|------------------------------------|--|---------|-------|
| 学生 | 大学生 | 経営工学会への入会 | 学会活動全般、経営システム誌、学会論文誌・・・ | | |
| | | インターンシップ推進 | インターンシップ募集企業案内 | | |
| | 受験生 | 受験案内 | 何を学ぶのか、どの様に学ぶのか どう役に立つか(就職、転職、役職、・・・) 経営工学系大学の照会 | | |
| 大学 | 学長 学部長 教授会 | 産学連携、大学活性化 | 企業人の非常勤講師派遣 | | |
| 企業 | 人事部門 | 経営工学系人材の採用 促進 | 何を研究しているか ・経営システム誌、学会論文誌 ・研究室レポート(ex 辻教授「魚心」) | | |
| | 人材受入部門 | | | | |
| | 経営者 | 経営層と教授とのコミュニケーションによる 経営工学の認知度UP | 関西生産性本部への教授参加、講演 | | |

宇井先生からのご意見

「経営工学の見える化」活動計画は大変良い企画であると思われまので、出来る限りご協力させていただきます。

そこで、下記の通りのプロジェクトチーム（経営工学実践賞の受賞候補者発掘のため）の発足を運営委員会に提案しご承認いただきたいと考えています。よろしくお願ひします。

プロジェクトチームの発足について（経営工学実践賞の受賞候補者発掘のため）

メンバー

- ・「経営工学を学べる大学から各1名」（敬称略）
 - 大阪府立大学 長沢 啓行 氏
 - 大阪工業大学 宇井 徹雄 氏
 - 近畿大学 久米 靖文 氏
 - 関西大学 冬木 正彦 氏
 - 摂南大学 羽石 寛寿 氏
- ・「事例研究会」
 - 主査 河合 秀彌 氏
 - 副査 竹安 数博 氏
- ・支部長
 - 溝口 泰弘 氏

以上8名